

研究倫理はなぜ大切？

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。きっと、大学という新しい自由な環境で学ぶことに胸を躍らせて入学されてきたことでしょう。豊かな自然と固有の文化に恵まれたここ沖縄の地で、みなさんが学園生活を楽しみつつ有意義な時間を過ごすことを期待しています。

さて、みなさんは研究、あるいは倫理という言葉にはいずれもあまりなじみがないことでしょう。しかし、3、4年生になると殆どの方々は研究室に所属し、卒業論文の制作に勤しむことになります。研究とは、これまでなかったような新しい情報を自らの手で生み出す作業、と言い換えることもできます。その時に気をつけるべきいろいろなルールを研究倫理と称しておくことにしましょう。

具体的に研究の流れについてもう少し細かく見てみます。研究テーマが決まった後はおおむね以下のようです。

- ①テーマに関するこれまでの研究の状況を調べる
- ②研究の計画を練る
- ③研究を実施する
- ④結果をまとめて論文を書く
- ⑤何等かの形で発表する

さて、紙面の都合もあるので、この流れの中で、研究倫理の観点から大事なことを2つだけ指摘しておきます。

第一に、主に①に関連した新しいツールとして、みなさんはデータベースを活用することになります。これから取り組もうとしている研究が、既に“やり尽くされていた”としたら、それを繰り返す意味はありません。何がやられていて、何がやられていないかをあらかじめ知っておかなければなりません。このガイドブックには資料・情報の収集の仕方が丁寧に書かれています。また、本学図書館の[電子リソースポータル](#)からは、国内外の約6万タイトルに及ぶ雑誌にアクセスし、瞬時に必要な論文を得ることができます。つまり日本のみならず世界の情報に直接触れることができます。みなさんにはあらゆる機会を捉えて、是非世界を見据えた学びを心がけて欲しいと思います。

さらにこの件に関して述べておきたいのが、生成AIです。既に多くのみなさんも使った経験があるでしょう。これはリクエストに応じて既存の情報を分かりやすくまとめて示してくれるツール、と言えましょう。その発展は急速で、最近のものは、過去の関連研究データを手際よくまとめてくれるだけでなく、まごまご

すると、一つの論文らしきものまで作ってしまいます。生成AIは研究に限らず、様々な分野での活用が期待されるので、みなさんがこれを賢く使っていかうとするのは当然のことと思います。しかし、その一方で、みなさんがある課題についていろいろな情報を集めて自分なりにそれらのエッセンスをまとめ、考察を加えて自分の考え方を示していく、という大事なプロセスをこのツールに委ねてしまう可能性があります。これはみなさんが大学在学中に身に着けるべき技能の根幹とも言える部分ですから、注意する必要があります。琉球大学として生成AIにどう向き合うべきかを考え、ガイドラインを作りましたので、確認しておいてください。（[国立大学法人琉球大学における生成AI利用に関するガイドライン](#)）

さて、二番目に指摘したいのは、④、⑤に関わることで、自分が得たデータをどうまとめるかです。その際、最も大事なことは、自分のデータに正直になれ、ということです。具体的には、みなさんが②を経て研究を始める時、しばしば仮説を立てることになります。しかしそれに基づいて作業を進め、データを集めたけど、その証明には至らなかったということがよく起こります。どうしてでしょうか。一般的には以下の3つのケースが考えられます。

- ・そもそも仮説が間違っていた。
- ・仮説は間違っていなかったけどそれを検証するための技術が不十分だった、あるいはアプローチが適切でなかった。
- ・仮説は間違っていないし、技術もアプローチも問題なかったが、証明するにはデータが不十分だった。

研究に取り組む人は誰しも自分が立てた仮説が正しかったと証明したいものです。そのため、期待していたデータが得られなかった場合、架空のデータを作り出してしまう（捏造）、取ったデータを都合のよいように書き換えてしまう（改ざん）、他の人が取ったデータをあたかも自分のデータのように使ってしまう（剽窃）、というようなケースが出てきます。残念ながらこうしたニュースはしばしばマスコミに登場します。同時に、通常その人の研究人生の終わりを意味します。みなさんが研究する際に一番大事なことは、自分が取ったデータから何が言えるのかを熟考することです。たとえ当初の仮説が証明されなかったとしても、恥じることはありません。どうしてそうなったかについて徹底的に考え、それを書き下しましょう。そうすれば後輩があなたの研究を引き継ぐことができます。しかし、もしそこに、捏造、改ざん、剽窃などが含まれていると、さらなる発展や展開の可能性は消え、研究としては何も残らなくなります。繰り返しになりますが、シンプルに、自分が得たデータに正直に向き合って言えることのみを言う、ということが最も大事です。

論文の書き方についてはここで特には述べませんが、このガイドブックの中の“[レポートを書くときの注意点](#)”を参照してください。また、高校時代の勉強とは異なり、大学で研究を行う際には研究室の同僚や先輩らとのコミュニケーションがとても大切になります。必要な技術を習ったり教えたり、一緒にデータを取ったり、議論したり、先輩に論文の書き方を習ったり、見てもらったりすることも多いことと思います。可能なら、研究倫理に関することも質問、あるいは議論してみてください。本ガイドブックには、研究倫理の基礎となる事項がいろいろと掲載されているので、参考にしてください。いずれも大学人としてみなさんが当然知っておくべき重要なことからです。そしてその後には、「[琉球大学研究者倫理規範](#)」などにも目を通していただきたいと思います。これは学生も含め本学の研究者が守るべき倫理規範について簡単にまとめたものです。

琉球大学ではさらに「[琉球大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程](#)」等も含め、研究倫理の向上に取り組んでいます。これらについては、[研究推進機構のホームページ](#)からもアクセスできます。特に、これから研究を始めようとする方はぜひご一読ください。

最後に、みなさんが琉球大学で充実した大学生活を過ごされることを願って結びいたします。

琉球大学理事・副学長（企画・研究担当）
木暮 一啓

